



公開シンポジウムのご案内

「歴史としての冷戦終焉ーポスト冷戦の視座からー」

共催：公益財団法人日本国際問題研究所（JIIA）、九州大学大学院法学研究院

日本国際問題研究所では、九州大学大学院法学研究院との共催で「歴史としての冷戦終焉ーポスト冷戦の視座からー」と題するシンポジウムを開催する運びとなりましたのでご案内申し上げます。当研究所では、「国際共同研究支援事業（領土・主権・歴史調査研究支援事業）」の試みの一つとして、冷戦終焉期の国際政治について検証を進めています。

現在の世界は「歴史の転換点」にあるともいわれ、日本を取り巻く国際情勢も厳しさを増しています。本シンポジウムは、現在の国際問題の起源の多くが冷戦終焉の過程にあるという問題意識のもと、政治外交史から現代を捉え直します。各国・地域にとって冷戦終焉はいかなる経験であり、ポスト冷戦期の政治外交をいかに規定したのか。冷戦終焉の前後で、日本を取り巻く東アジア国際関係の何が変容したのか。冷戦終焉に関する多様な論点について、各国・地域の政治外交を研究する専門家たちがラウンドテーブル形式で議論します。

本シンポジウムは、会場（福岡県福岡市内）とオンライン（Zoom）にて同時配信いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

記

- 日時：2024年11月2日（土）14：00～17：40（受付開始：13：30～）
- 会場：TKP ガーデンシティ博多（Zoomの同時配信あり）
住所：〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-4-8 サットンホテル博多シティ内5階
（JR博多駅博多口から徒歩5分）

3. セッションおよび登壇者

第1部「西側同盟から見た冷戦終焉」

モデレーター：細谷 雄一（慶應義塾大学法学部 教授/JIIA 上席客員研究員）

パネリスト：板橋 拓己（東京大学大学院法学政治学研究科 教授）

中島 琢磨（九州大学大学院法学研究院 教授）

山口 航（帝京大学法学部 専任講師）

第2部「東アジアで冷戦は終わったのか」

モデレーター：川島 真（東京大学大学院総合文化研究科 教授）

パネリスト：小林 聡明（日本大学法学部 教授）

福田 円（法政大学法学部 教授）

益尾 知佐子（九州大学大学院比較社会文化研究院 教授/JIA 客員研究員）

4. 言語：日本語

5. 参加費：無料

6. 参加登録：下記 URL または二次元コードからご登録ください。



(<https://eventevent-planner.net/#/bundlesite/ehamgdab>)

7. 登壇者略歴（セッションごと）

【第1部】

・細谷 雄一（ほそや ゆういち）

1994 年立教大学法学部卒業、1997 年慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程修了、2000 年同博士課程修了。博士（法学）。プリンストン大学客員研究員（フルブライト・フェロー）、パリ政治学院客員教授（ジャパン・チェア）、ケンブリッジ大学ダウニング・カレッジ訪問研究員等を歴任。2010 年、慶應義塾大学法学部教授に就任（現職）。日本国際問題研究所上席客員研究員を兼任。専門は国際政治学、国際政治史、イギリス外交史。主な著書に『戦後国際秩序とイギリス外交——戦後ヨーロッパの形成、1945～51 年』（創文社、2001 年サントリー学芸賞）、『倫理的な戦争——トニー・ブレアの栄光と挫折』（慶應義塾大学出版会、2009 年、読売・吉野作造賞）がある。

・板橋 拓己（いたばし たくみ）

北海道大学大学院法学研究科博士後期課程修了、博士（法学）。北海道大学大学院法学研究科助教、成蹊大学法学部助教、同准教授、同教授を経て現職。専門は国際政治史、ドイツ政治外交史。著書に『分断の克服 1989-1990——統一をめぐる西ドイツ外交の挑戦』（中公選書、2022 年）など。

・中島 琢磨（なかしま たくま）

1976 年、長崎県生まれ。鹿児島大学法文学部卒業、九州大学大学院法学府博士後期課程修了。博士（法学）。龍谷大学法学部准教授などを経て、2023 年より現職。編著書に、『沖縄返還と日米安保体制』（有斐閣、2012 年）、『高度成長と沖縄返還』（吉川弘文館、2012 年）、栗山尚一／中島琢磨・服部龍二・江藤名保子編『外交証言録 沖縄返還・日中国交正常化・日米「密約」』（岩波書店、2010 年）、『戦後の日本は主権を回復したか——『独立の実質化』の問題の視点から』（『年報政治学 2019- I 主権はいま』2019 年 6 月）など。

・山口 航 (やまぐち わたる)

神戸市生まれ。同志社大学法学部3年次退学(飛び級で同大学院入学)。同大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士(政治学)。スタンフォード大学客員研究員、同志社大学アメリカ研究所助教などを経て、現在、帝京大学法学部専任講師。専門は日米関係史、安全保障論、国際政治学。著書に『冷戦終焉期の日米関係——分化する総合安全保障』(吉川弘文館、2023年、大平正芳記念賞・猪木正道賞正賞)など。

【第2部】

・川島 真 (かわしま しん)

東京大学大学院総合文化研究科教授(国際関係史)。東京大学大学院人文社会系研究科修了、博士(文学)、専門はアジア政治外交史、中国外交史。北海道大学法学部助教授などを経て2015年から現職。中曽根世界平和研究所研究本部長、日本学術会議連携会員などを兼任。台湾、中国、アメリカなどで在外研究。2004年『中国近代外交の形成』(名古屋大学出版会、2004年)でサントリー学芸賞、2023年外務大臣表彰。

・小林 聡明 (こばやし そうめい)

日本大学法学部新聞学科教授。一橋大学社会学部卒業。一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(社会学)。日本学術振興会(DC2,PD)特別研究員、東京大学、メリーランド大学、ソウル大学、高麗大学、East-West Center in Washington、ケンブリッジ大学、慶熙大学、台湾大学、ベルリン自由大学などで研究・教育活動を行ったのち、現職。朝鮮半島地域研究、東アジア国際政治史、情報・メディア史。

・福田 円 (ふくだ まどか)

国際基督教大学教養学部卒、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了、同後期博士課程単位取得退学。この間、台湾政治大学国際事務学院東亜研究所博士課程へ留学。博士(政策・メディア)。国土舘大学21世紀アジア学部専任講師、同准教授、法政大学法学部准教授を経て、2017年より現職。著作に、『中国外交と台湾——「一つの中国」原則の起源』(慶應義塾大学出版会、2013年)、『入門講義 戦後国際政治史』(共編著、慶應義塾大学出版会、2022年)など。

・益尾 知佐子 (ますお ちさこ)

九州大学大学院比較社会文化研究院教授、日本国際問題研究所客員研究員。専門は国際関係論、現代中国の政治外交。東京大学教養学部を卒業後、同大学院総合文化研究科で博士号取得(学術)。その間、研究助手として故エズラ・F・ヴォーゲル教授の薫陶も受けた。福岡で毎日、海を見て暮らすうちに海洋に関心を持ち、2021年には中国海警法批判などで中曽根康弘賞優秀賞を受賞。著書に『中国の行動原理』(中公新書、2019年)、『中国外交史』(共著、東京大学出版会、2017年)、『中国政治外交の転換点』(東京大学出版会、2010年)など。英語・中国語での活動も多い。

8. お問い合わせ先:

日本国際問題研究所福岡シンポジウム事務局

E-mail: 241102sympo@jia.or.jp

以上